

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No382

熊本大学教育学部附属中学校研究発表会(2025年11月8日)

そもそも「探究」とは何か、何のための探究か？

苦野一徳先生（熊本大学准教授）との対談

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の研究委託を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

校長及び研究主任からの挨拶

校長挨拶

校長 松島 孝司

時下、皆様には様々なご意見をいただき、ありがとうございます。また、日頃より本校の教育研究に深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本校では、「主体性の育成」を教育目標に掲げ、生徒・教職員・保護者・関係者が一体となって教育活動に取り組んでおります。各教科において、自己調整力や対話力の育成を図ることで、その力で探究活動や特別活動に結果を出すことを目指しております。近年では、本校が学校生活の様々な場面で主体的に企画・実践する姿が増え、益々変化を感じているところです。

本研究発表会では、授業公開や「ホールディスカッション」を通して、理論と実践を繋ぎながら、教育のあり方と共に考える場を設けています。生徒の学びや教職員の取り組みをご覧いただき、発表のないご意見を頂きましたら幸いです。

なお、令和3年よりの土曜日開催となります。多くの皆様のご来校を心よりお待ち申し上げます。

研究主題について

研究主任 甲斐 知

本校では、「自他の幸福のために、自ら探究し、行動する生徒」の育成を目指し、「学びを発揮する授業」の創造に取り組んできました。今年度は、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学習の充実を通して、自ら問いを見だし、対話を通じて最適解を探求しようとする生徒の姿の実現を目指しています。

そのような生徒を育てるためには、未知なる状況や正解のない問いに向き合いながら、見方・考え方を自在に動かせ、これまでに培った資質・能力を発揮することが必要です。そこで各教科の授業では、自己調整サイクルにおける学びの質の向上と、所中型対話モデルの活用を手立てとして、学びを発揮する授業と、それに裏える見据えた授業の充実に焦点を当て、研究を進めています。

研究発表会では、分科会を通して生徒と対話を重ね、研究のさらなる深化を図ってまいります。

申し込みから当日の参加まで

下のQRコードを読み込み、PassMarket（バスマーケット）上で必要事項を入力してください。参加費についてもPassMarket上で振り込みをお願いいたします。（手数料は参加者負担となります。）

参加費（対面）一般：1,000円 学生：500円

申し込みは
こちらから



届いたいたい個人情報は、研究発表会の運営以外には使用いたしません。

会場の新設上、10月31日（金）までにお申し込みください。

会場は九州森林管理局に隣接しておりますが、敷地内に駐車場がございます。申し訳ありませんが、乗り合わせや公共交通機関のご利用等、ご協力をお願いいたします。

当日の販売は、お申し込み時にご入力いただくメールアドレスにリンクを送付いたします。当日の配付はございませんのでご了承ください。

お申込の注文をご希望される場合は、PassMarketより申し込みをお願いいたします。

オンデマンド配信について

公開授業後、11月中旬にYouTubeにて授業のオンデマンド動画を配信いたします。

また、Zoomによる教科会を実施いたします。（12月に実施予定）

ともに、準備ができ次第、メールにてお知らせいたします。

オンライン配信のみを希望される方もQRコードから申し込みをお願いいたします。

【会場までのアクセス】



問い合わせ

熊本大学教育学部附属中学校
〒860-0081 熊本県中央区京町本丁5-12
TEL:096-355-0375 FAX:096-355-0379
担当:主幹教諭 原水 誠太郎
URL:https://www.kumamoto-fuchu.ed.jp
E-mail:tominaga@educ.kumamoto-u.ac.jp



令和7年度 熊本大学教育学部附属中学校 研究発表会案内（第2次）

研究主題

自他の幸福のために、 自ら探究し、行動する生徒の育成

～総合的な学習の時間を中核とした探究的な学習の充実を通して～



講演

+

講師の先生方と
本校生徒による
パネルディスカッション



+



+



+

澤上 偵一 先生
熊本県人材開発監修事務
機関監修会議委員
西野一徳 先生
熊本大学基礎物理
前田康裕 先生
熊本大学教諭研究員

1.期日：令和7年11月8日（土） 8:30～16:30

2.会場：熊本大学教育学部附属中学校

（対面での開催、後日オンライン配信及びZoomでの教科会）

主催：熊本大学教育学部附属中学校

後援：熊本県教育委員会

熊本大学教育学部情報教育研究会

熊本大学教育学部附属中学校同窓会

熊本市教育委員会

熊本大学教育学部同窓会

熊本大学教育学部附属中学校教育後援会

11/8（土）

熊本大学教育 学部附属中学校 研究発表会

（対談）

- ・ 溝上慎一
 - ・ 西野一徳先生
- 「探究学習に関するパネルディスカッション」

(ご紹介)



苦野一徳
とまの・いっとく



哲学者・教育学者 熊本大学大学院教育学研究科准教授

早稲田大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士（教育学）。経済産業省「産業構造審議会」委員、熊本市教育委員のほか、全国の自治体・学校等のアドバイザーを歴任。



主な著書に、『どのような教育が「よい」教育か』（講談社）、『勉強するのは何のため?』（日本評論社）、『教育の力』（講談社現代新書）、『「自由」はいかに可能か』（NHK出版）、『子どもの頃から哲学者』（大和書房）、『はじめての哲学的思考』（ちくまプリマ一新書筑摩書房）、『「学校」をつくり直す』（河出新書）、『ほんとうの道徳』（トランスビュー）、『愛』（講談社現代新書）、『NHK100分de名著 苦野一徳特別授業 ルソー「社会契約論」』（NHK出版）、『未来のきみを変える読書術』（筑摩書房）、『学問としての教育学』（日本評論社）、『『エミール』を読む』（岩波書店）、『親子で哲学対話』（大和書房）などがある。

No361

著書『エミール』を読む のご紹介

次期学習指導要領改訂『論点整理』における「民主主義」
「デジタル技術の民主化」についても議論しました

苦野一徳先生
(哲学者・教育学者)
(熊本大学大学院教育学研究科准教授)



溝上慎一の教育論「動画チャンネル」

本質観取の教科書

みんなの納得を生み出す対話

苦野一徳 岩内章太郎
Tomano Ittoku Iwauchi Shotaro
稻垣みどり
Inagaki Midori

「言いっぱなし」でも「論破！」でもない、
真に生産的な対話をもたらす
哲学の奥義
“本質観取”とは？
!



集英社新書

苦野一徳・岩内章太郎・稻垣みどり (2025). 本質観取の教科書—みんなの納得を生み出す対話—集英社新書 (2025年11月刊行)

それではご覧ください

- 研究、著書、実践等の紹介
- 溝上との議論

附属中の取り組みと探究活動の未来 —対話・民主主義・学習指導要領改訂の視点から—

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp



【略歴】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、教授を経て、2018年に桐蔭学園へ。2019年同理事長、現在に至る。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

* 詳しくはスライドの最後にあるプロフィールをご覧ください

対談内容

- ① 附属中の「探究」の取り組みについて感想
- ② そもそも「探究」とは何か？
- ③ 何のための探究か？
- ④ どう進めればいい？

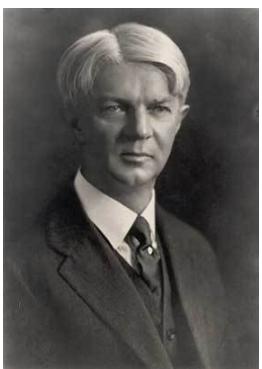
①そもそも「探究」とは何か？



ジョン・デューイ
(1859～1952)

【探究】

「探究とは、不確定な状況を確定した状況へと(略)転換することである。」(=経験／生きることそれ自体)
(デューイ『論理学—探究の理論』)

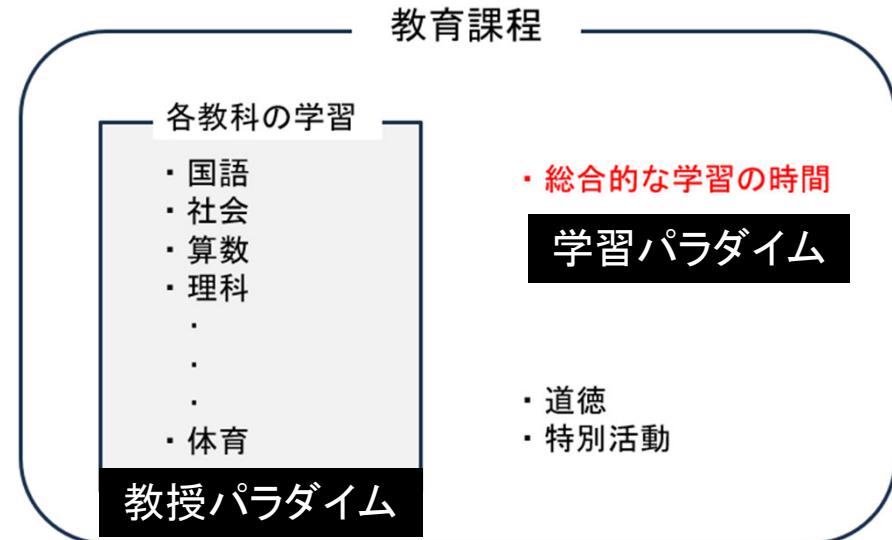


ウィリアム・キルパトリック
(1871～1965)

【プロジェクト】

「全精神を打ち込んだ目的ある活動」(=よりよい探究のための方法概念)
⇒自分(たち)なりの問い合わせを立て、自分(たち)なりの仕方で、自分(たち)なりの答えのたどり着く学び(苦野)
(キルパトリック『プロジェクト・メソッド』)

學習指導要領『平成10-11年改訂』(1998-99年)



教育課程上の外出しの戦略的構図

知識を一方的に教え込むことになりがちであったこれまでの教育（=教授パラダイム）から、子どもが自ら学び、自ら考える教育（学習パラダイム）へと転換しなければならない。

→ゆとり教育の推進

- 教育内容の厳選
 - 授業時数の縮減
 - 総合的な学習の時間の新設等

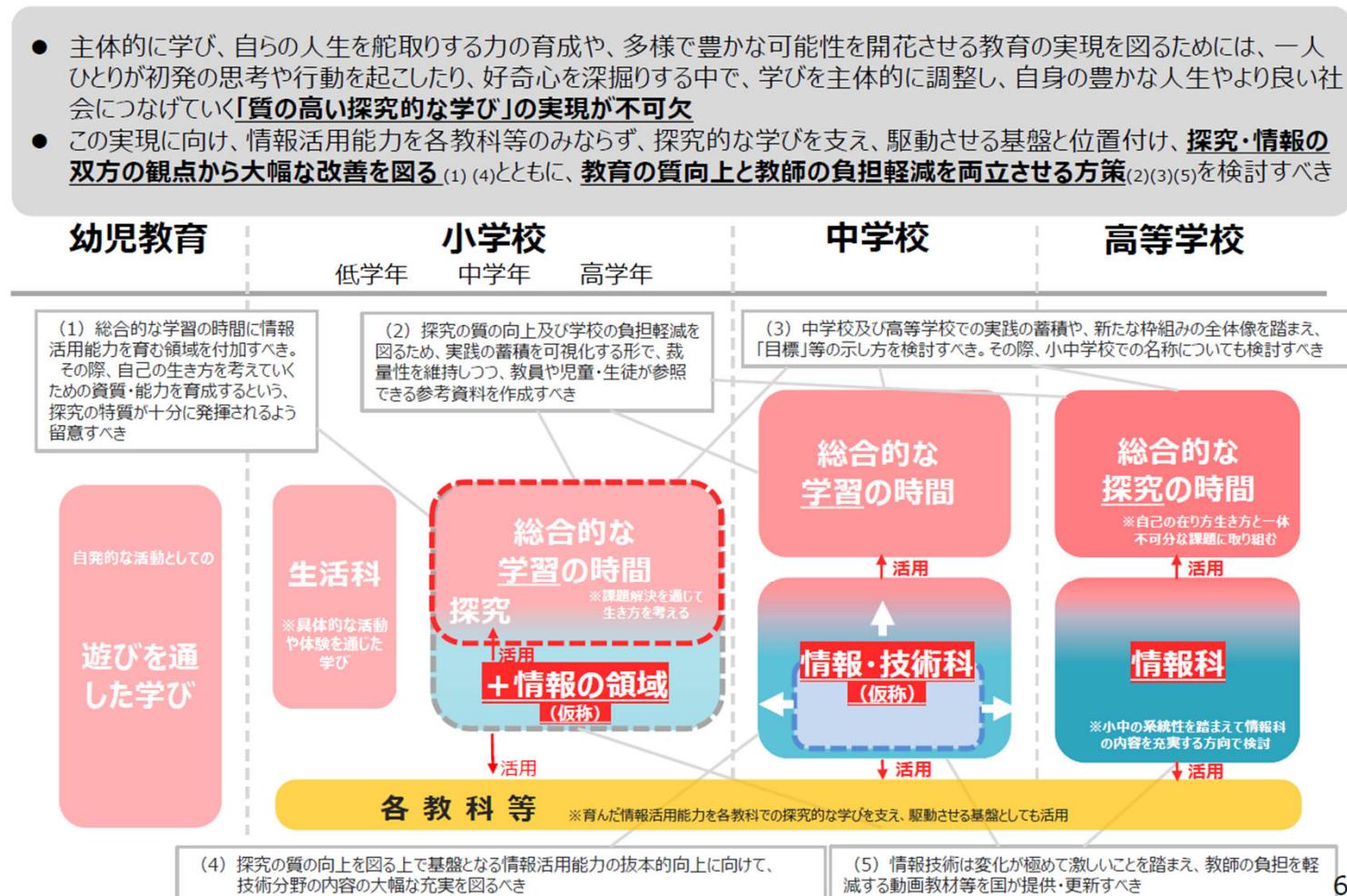
- **横断的・総合的な学習であること**
 - 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること
 - 国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、体験的・問題解決的に学習すること

(外出しの構造は今も続く1) 総合+情報のカップリング戦略→各教科等へ

『論点整理』(2025年9月25日)

質の高い探究的な学びの実現に向けた新たな枠組み (②全体イメージ) 補足イメージ4-⑥

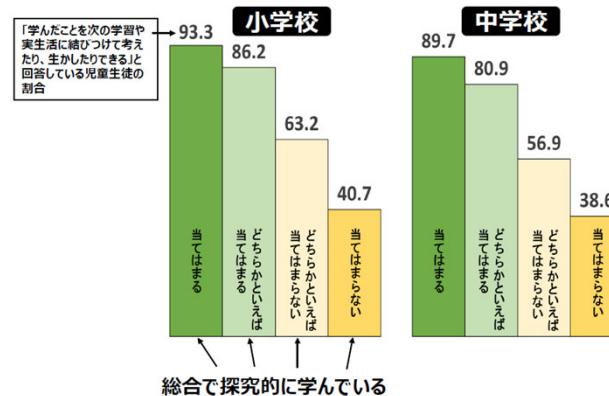
- 主体的に学び、自らの人生を舵取りする力の育成や、多様で豊かな可能性を開花させる教育の実現を図るために、一人ひとりが初発の思考や行動を起こしたり、好奇心を深掘りする中で、学びを主体的に調整し、自身の豊かな人生やより良い社会につなげていく「質の高い探究的な学び」の実現が不可欠
- この実現に向け、情報活用能力を各教科等のみならず、探究的な学びを支え、駆動させる基盤と位置付け、探究・情報の双方の観点から大幅な改善を図る (1) (4)とともに、教育の質向上と教師の負担軽減を両立させる方策 (2)(3)(5)を検討すべき



(外出しの構造は今も続く2) 総合は各教科等の学力を上げるための学習ではなかったはずだが

R6全国学調

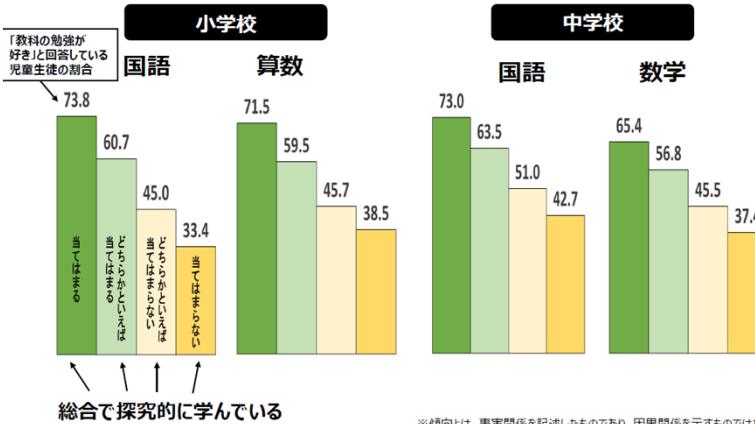
「探究的な学び」に取り組む児童生徒は、授業で学んだことを
「次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりできる」割合が高い傾向



※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。
(出典) 令和6年度全国学力・学習状況調査 14

R6全国学調

「探究的な学び」に取り組む児童生徒は
「教科の勉強が好き」な割合が高い傾向

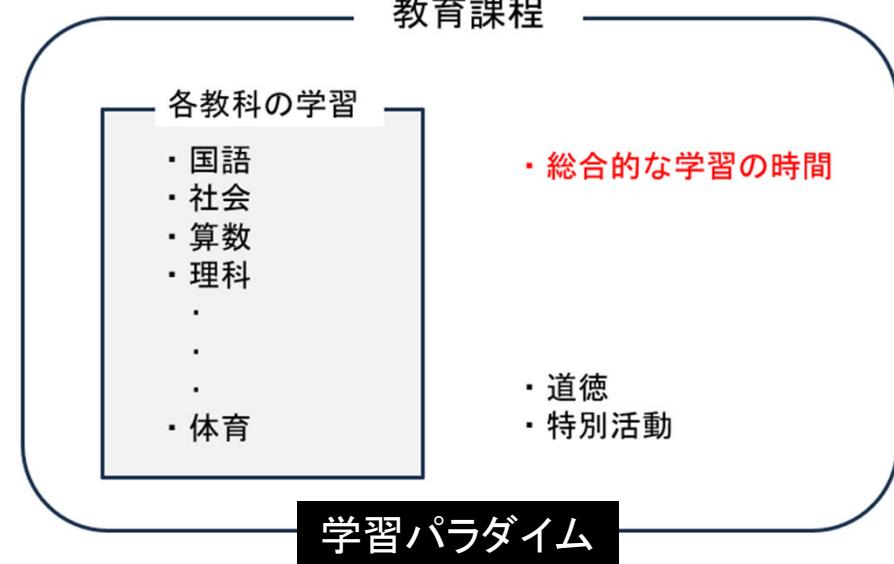


※傾向とは、事実関係を記述したものであり、因果関係を示すものではない。
(出典) 令和6年度全国学力・学習状況調査 18

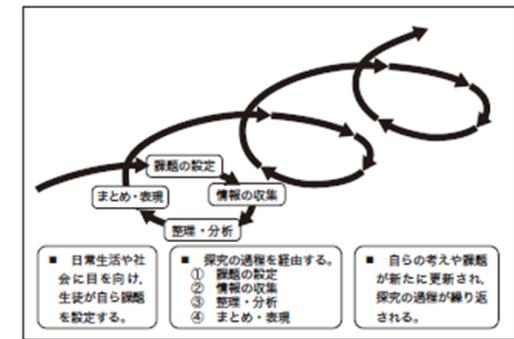
資質・能力の育成

各教科等の学力

学習指導要領『平成20-21年改訂』(2008-09年)



- 各教科等における言語活動の充実
- 総合的な学び＝探究的な学び(追加定義)
- 探究のプロセス
 - 課題の設定
 - 情報の収集
 - 整理・分析
 - まとめ・表現
- 教育課程における習得・活用・探究

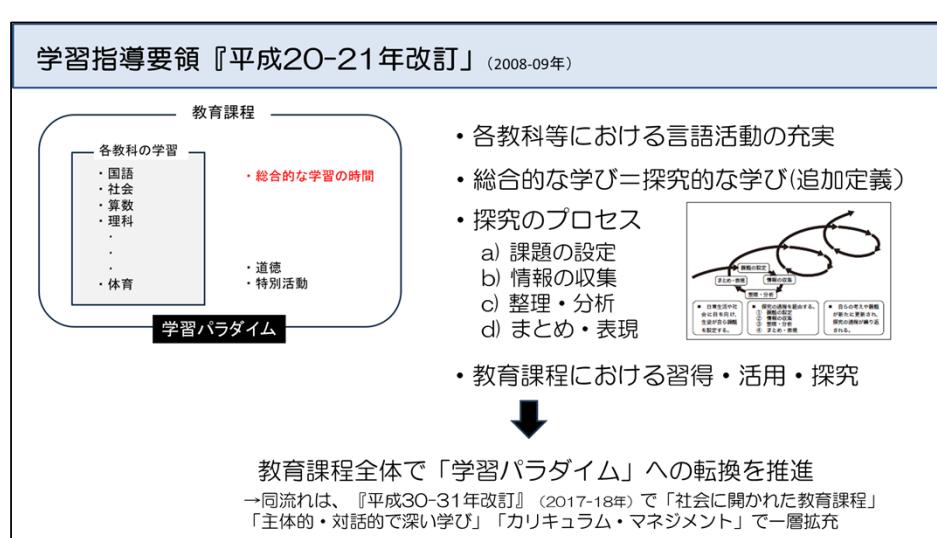


教育課程全体で「学習パラダイム」への転換を推進

→同流れは、『平成30-31年改訂』(2017-18年)で「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラム・マネジメント」で一層拡充

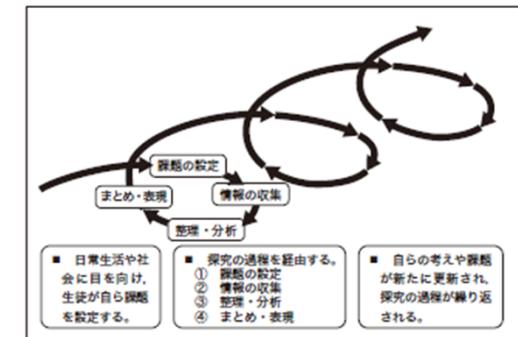
総合的な学習としての 探究的な学び とは何か？

『平成20-21年改訂』 (2008-09年)



① 答えが一つに定まらない課題への取り組み
や問題解決学習

② 探究のプロセスを
採る学習

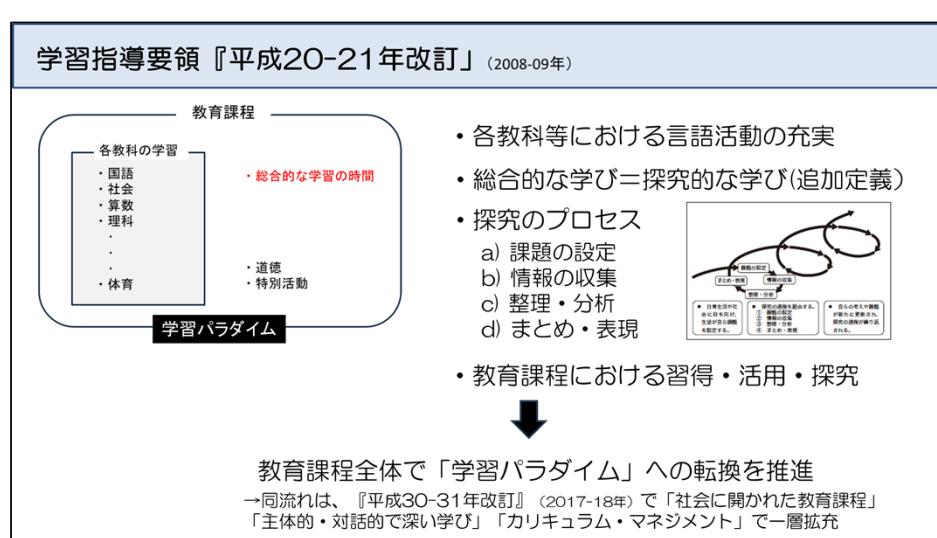


③ 自らの課題設定を条件とする学習

・実社会・実生活
・自己の生き方 を踏まえること

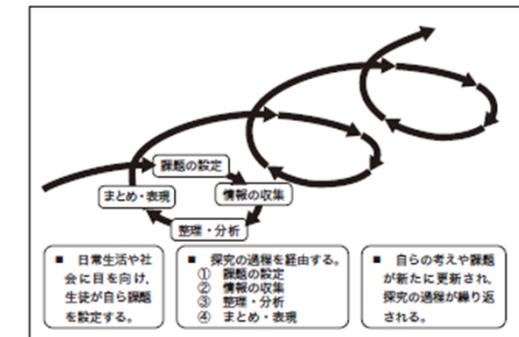
総合的な学習としての 探究的な学び とは何か？

『平成20-21年改訂』 (2008-09年)



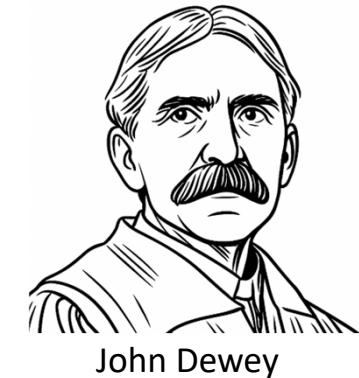
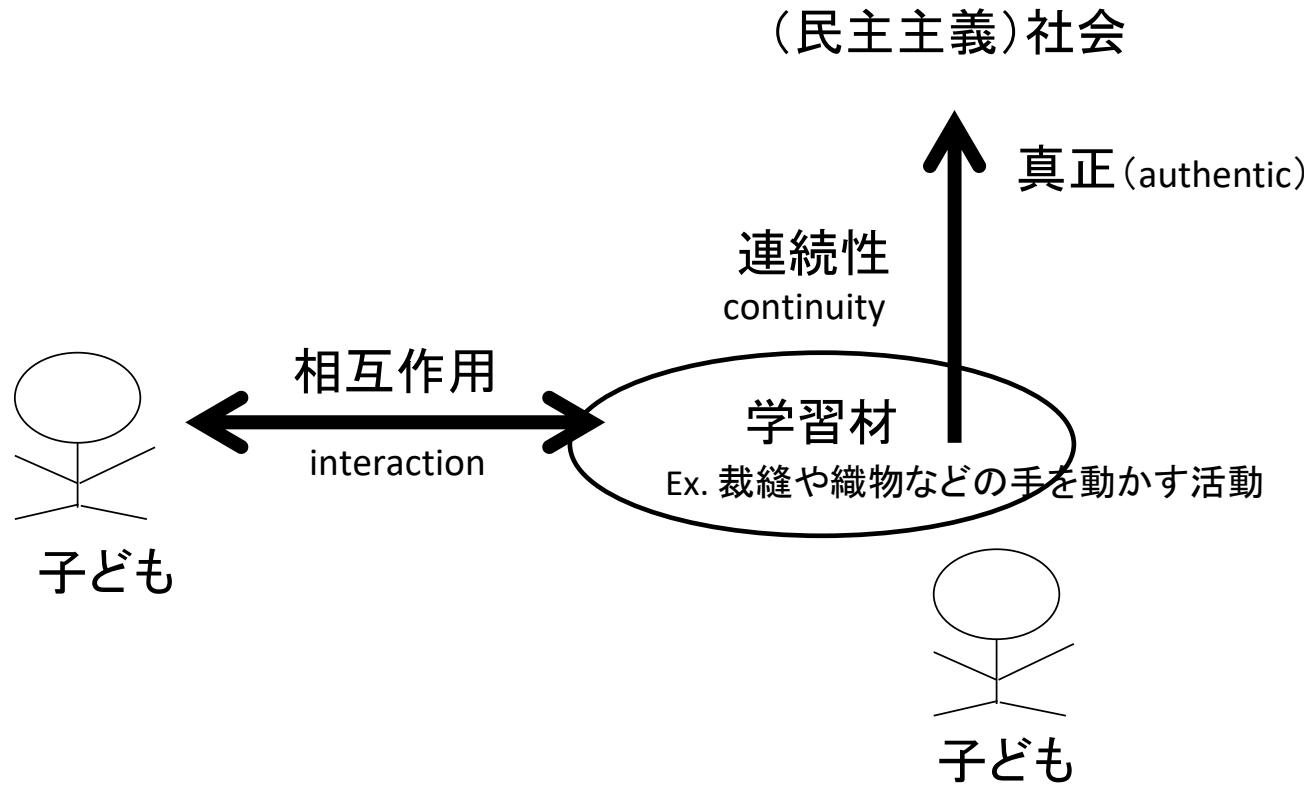
① 答えが一つに定まらない課題への取り組み
や問題解決学習

② 探究のプロセスを
採る学習



③ 自らの課題設定を条件とする学習

・ 実社会・実生活
・ 自己の生き方 を踏まえること



(文献)デューイ, J. (著)市村尚久 (訳). (2004). 経験と教育 講談社学術文庫

(文献)早川操 (1994). デューイ探究教育哲学—相互成長をめざす人間形成論再考— 名古屋大学出版会

②そもそも何のための探究か？

予測不能な時代？ VUCAの時代？

→「学び」の本質であるから

→民主主義社会における「学び」の本質であるから



- 知識は「覚えるもの」ではなく「学び手が創り上げていくもの」
- 「生きた知識」と「死んだ知識」がある。
- テストのために覚えたことの90%はすぐに忘れてしまう。
- 「点数評価される勉強」は、学びの意欲を著しく阻害する。



【出典】報酬主義をこえて／アルフィ・コーン | 法政大学出版局